（別添４）

【糸満市】

１人１台端末の利活用に係る計画

１．１人１台端末を始めとするICT 環境によって実現を目指す学びの姿

予測困難な時代で先行きが不透明な時代を生き抜くためには、生涯にわたって学び続けることが求められている。

個別最適な学びでは、児童生徒のペース、方法、理解度、興味関心も少しずつ異なり、児童生徒が納得するやり方で進めていく。また一人で学ぶに時間的な制約があり、協働的な学びが必要となり、友達と対話を通し、またクラウド上で友達の考えを参照し、感化される場面等が想定される。

沖縄県義務教育課の「自立した学習者の育成」重点１では、「学習基盤としての ICT」による児童生徒の学びに主体性を育む取組の充実と記載されている。また、糸満市学力向上推進施策５重点取組施策Ⅱ子供主体の学び高め合う授業づくり③「ICT 活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の推進を図る。」「自立して学ぶ児童生徒の育成に向けた「自学自習力」及び端末の持ち帰り学習を推進する。」にも記載している。

そのようなことから、これまで以上に、１人１台端末やクラウド環境下での個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実し、児童生徒が主体的に学び、児童生徒が対話的に学ぶ、児童生徒の資質・能力の育成につなげていくことを目指す。

２．GIGA 第１期の総括

コロナ禍で休校等の中、オンライン授業や持ち帰りを通して、端末の利活用が一定程度進むこととなった。また、Google Workspace、Teams 等を利用した校内での資料の共有や情報共有する仕組みも一定程度定着した。

フォームを通じた欠席連絡やアンケート集計といった実践も増えており、コロナ禍の経験を活かした実践が広がっている。

一方で、学校間の利活用の差や学年間での利活用の差も出てきている。学習の基盤として「情報活用能力の育成」には、１人１台端末を活用した実践が不可欠である。市教育委員会のICTスキル研修は然り、校務や授業に関する校内研修等で利活用を十分に体験及び理解し、授業等で実践が広げていくことが必要とされている。

３．１人1台端末の利活用方策

今回の端末整備・更新に向けて、教師の校務や研修での利活用を促進し、クラウド活用の体験を十分に満たし、授業や授業外での活用にも幅を広げていく。

新しい授業観に向けても、国の動向、県の動向も踏まえて、理論的な研修の充実を図り、端末利活用が目的ではなく、児童生徒の「学びを豊か」にするための利活用に向けて理解を深めていく。

県内の先進地域（リーディング DX スクール指定校）の授業視察や県外の先進地域等の視察も行い、先進地域の取組から学び、自治体の実践に活かしていく。

校務 DX でも記載したとおり、今後は、教師のみならず、児童生徒のコミュニケーションツールの利活用も期待できる。標準仕様のツールを組み合わせてクラウドネイティブ時代の学びの充実を図っていく。

沖縄県からは、沖縄県教育庁県立学校教育課教育 DX 推進室と連携し、研修支援や授業改善の支援を受け、国の支援として文部科学省学校 DX 戦略アドバイザー、文部科学省 GIGA StuDX 推進チームも活用しながら、研修支援や授業支援を計画し、１人１台端末の利活用を促進していく。